



広場名：ファーストスクエアガーデン（東京都千代田区）

総評

大手町という都心の好立地にありながら、都市における広場の価値を強く認識し、従来非収益部分とされる広場への全面的なリニューアル投資を行った点が、本広場における最大の評価ポイントです。時代変化に伴う公開空地の役割について、抜本的な見直しを行った先進的な事例として高く評価しました。第一にオフィスワーカーにとっての身近な存在となることを計画初期から関係者間で共有し、誰もが気軽に立ち寄れる・生活に寄り添い愛される“都市の庭”を、周囲と丁寧に創り上げていこうとする一貫した姿勢に共感しました。また、近隣との境界を超えた豊かな緑があるだけでなく、緑が人との心地よい距離や視線の関係性を巧みにコントロールしていることから、本広場ユーザーの愛着が時間をかけて醸成され、都市の新たな緑の価値を発信する拠点となっていく可能性を感じます。運用開始から間もないこともあり、今後さらなるユーザーの声を蓄積してハード・ソフト両面での充実が図られること、そして大手町という立地にある本広場が国内外の公開空地に対して影響を与え、都市再生における先導的な広場として注目されることを期待しています。

各審査基準に対する講評

第1階層：広場のシーン

1 どれだけのアクティビティが生まれているか：利用状況

オフィスワーカーの潜在ニーズを拾い上げ、空間に丁寧に反映したことで、日常・非日常バランスのとれた広場となっている点を評価しました。本エリアに不足していた緑による憩いや晴天時の昼休みのシーンを作り出し、日常生活に潤いを与える場所へと生まれ変わらせただけでなく、さらに非日常利用としてイベントにも活用しており、広場の立地特性ならびに立体構造を最大限に活かしている点も注目に値します。特にオープニングイベントの屋外シネマのイメージからは、イベントに気づき立ち止まることのできる地上空間、サンクンガーデンへと誘われる楽しみや、段差づかいで生まれる鑑賞エリアといった空間の多様性を感じ取ることができます。一方で、体験価値を高める目的においては、広場の立体構造を意識したアクティビティ戦略への説明や、アクティビティと結びつけた緑の価値を尊重する本広場だからこそ、真夏など年間での広場利用を促す提案の説明があることを期待します。併せて、サンクンガーデンに面する店舗との関係性についても魅力的な提案を期待します。今後も成長する緑との関係を活かした体験の可能性は未知数であり、四季や一日を通じて快適な空間の価値を追求していただきたいと思います。

第2階層：シーンを生む要素

2 空間自体が良質な設えとなっているか：空間の設え

全体の空間計画として、ただ眺める緑ではなく、ヒューマンスケールを意識した“親密な緑”をバランスよく配することで、オフィスエリアに憩いのシーンを実現している点を評価しました。訪れる人に語り掛けるサインやプレート、女性やワーカーの使いやすさを考慮したファニチャーや、イベント利用を想定した設備対応といった細やかな気遣いからも、広場利用者に対する誠実な姿勢が感じられました。

3 隣接地の状況を捉えているか：周囲との関係性

本広場においては、敷地という境界を超えて隣地の公開空地との一体感を図っており、広場空間として広がりを持たせる手法は他の空間においても模範となるものと考えます。さらに大手町エリアのブランド価値向上という視点が盛り込まれていることから、都市における広場の存在価値が関係者間で共有されていること、広場が新たな都市活動を創出する原動力となることを十分意識しているものとして評価しました。

4 周辺環境を踏まえた場となっているか：立地

丸の内仲通りの帰結点、地上・地下の歩行者動線が交わる好立地にある本広場は、多様な人々から認知されやすい場所にあることを前提に、日常・非日常の多様なシーンが効果的に育まれています。一方、前述のエリアブランド価値という観点においては、本立地を生かした休日の利用や観光客への利用に対する考えについて、説明があると良いと感じます。

第3階層：要素を支える仕組み

5 空間を実現するための仕組みの工夫があるか：制度活用等

本広場を支える制度活用については、上位計画上の地域特性に基づくことで、かつての公開空地からの脱却の指針としている点を評価しました。しゃれまち条例活用による賑わいづくりも効果的に行っています。一方、集客効果や売上貢献といった課題に対して広場リニューアルへの投資が関係者間で共有された経緯についてさらなる説明を期待します。

6 効果的な管理・運営が実践されているか：運営・管理

随所にみられる細やかな気遣いが本広場の質を高めていることを強く感じます。愛着を醸成するサインやプレートだけでなく、女性・子供への配慮や、植栽・水の安全管理にまで言及している点は、運営管理の信頼性の高さを感じます。本広場は運営まだ間もないことから、今後への期待が非常に高いといえます。例えば屋外シネマでの実施報告書からは、一部植栽による死角が生じたことが課題と捉えられますが、今後もユーザーの声を集積・反映していくことで、あらゆる部分で気遣いが感じられ、愛される広場として地域に育っていくことを期待します。

第4階層：仕組みを活かす人・組織

7 多様な関係者との協働による計画・整備・運営を行っているか：プロセス・デザイン

計画初期から関係者・ユーザー参加型のワークショップを開催し、使い手の声を尊重するプロセスに共感しました。本ワークショップの参加規模や募集方法に関する記述が見られず、幅広いユーザーの巻き込み・ファンやインフルエンサーへの早期アプローチを裏付けする点

ではさらなる説明が必要であると感じたものの、参加者からのフューチャーワードには幅広いアイデアが示されていると感じます。寄せられた期待の声をどのように実行したか、あるいは今後ハード・ソフトを含めていかに実行していくかが、本広場の注目に値する点であり、今後ともユーザーとのつながりを持続しながら生活の質を高めていく広場となることを期待します。

平成 29 年 7 月

一般社団法人国土政策研究会 公共空間の「質」研究部会
まちなか広場賞審査会